



支援員養成講座5

発達障害と合理的配慮

学年に応じた配慮④

1



知的障害の子どものへの支援

- 高学年では、失敗経験の多さなどから自信がないことがある
- プライドから理解しているふりをすることがある
- わからないことを隠したり、ごまかすことがある

本人の気持ちを尊重した支援が重要！



3



てんかん発作の介助

- 思春期に発症するタイプのてんかんがある。
てんかんの発症が、眠そうにするなどの様子の変化で気付かれることもある。
- 対応に悩むときには先生方に助けを求めることが重要です！



5



そのほかに学校で出会うことの多い障害

- 知的障害
- てんかん
- 身体障害
- 反抗挑戦性障害(反抗挑戦症)

※他の障害と重複していることが多く、子どもによって状態は異なる。



2



ダウン症(ダウン症候群)の子どもへの支援

- ASDの特徴を併せ持つことが多いと言われている。
- 高学年では、こだわりが強くなることも。
- ASDの支援を参考にしましょう！



4



身体的な介助が必要なケースへの対応

- 身体的な障害があっても、高学年になるにつれて、自分でできることを増やしていくことが大切
- どこを手伝え自分で取り組みやすくなるのかを考えて支援に当たしましょう
- 子ども自身、介助をされたらお礼が言えるように支援することは大切



6

反抗挑戦性障害(反抗挑戦症)の対応①

- 日頃から本人と信頼関係を築くようにしましょう
- 暴言、他害をやめさせようとしないう。
本人の行動の背景にある気持ちを理解しましょう
正論を伝えるのは効果がない。



7

反抗挑戦性障害(反抗挑戦症)の対応②

- 高学年では、力が強くなり、ことばも巧みになる場合がある。
- 支援員自身が怪我をしないように、距離を取って支援しましょう



8

そのほかの障害を持つ子どもへの支援

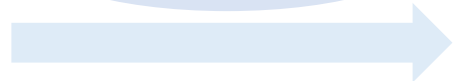
- 診断名にはなくても、知的障害やそのほかの障害に
ASD、ADHDの特徴を併せ持つことがある
ASD、ADHDの支援を参考にしましょう！



9

学年に応じた配慮

特に高学年では、失敗体験の積み重ねにより、
自己肯定感が下がる、学習性無力感などの
二次障害が生じるため、配慮が必要です



10